



# 雲晴

春彼岸号

「雲晴」第二十六号

平成三十年三月一日発行

貞林院 瑞正寺  
〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六一番五  
電話(〇三三) 三六二七―三四一五  
FAX(〇三三) 五六九九―五九一五

## おしえの花束

### 作法を身につける



お寺の行事に参加するお子さんたちを見ていて感じますのは、礼儀作法を身につけているお子さんと、そうでないお子さんの差があまりにも激しいということです。

礼儀作法を身につけている子どもさんは、玄関で「こんにちは」と挨拶をして、靴を脱いで上がる時も脱いだ靴はちゃんとそろえて、次の人のために隅の方へ置きます。中途半端ではありません。実にしっかりと作法が身につけていて、ご家庭のしつけが目に見えてきます。

それに比べて、礼儀作法が身につけていないお子さんは徹底的にダメですね。まるで自分の家とよその家の区別ができないような子どもさんが目につきます。

はきものはテンデンバラバラ、何と上がり

まちから遠くで脱いでいるのですから、はだしで土間を歩いてそのまま上がってきたに違いありません。こちらが「いらつしやい。こんにちは」といっても「うん」とうなずくだけ。なかには「探検しよう」などといって、他人の家の居間へ平気で入ってきます。いやあ、ほんとうに親ごさんの顔が見たくなりません。こんなときには。

なぜこうなるのでしょうか。その原因は私たち大人がきちんと礼儀作法を教えていないから彼らはわからないのではないのでしょうか。知らないのではないのでしょうか。わからない子、知らない子を責めるわけにはまいりません。

よく「心さえあれば、作法なんて不要」と言う方がおいですが、違います。作法が身につけてこそ心も整うのです。

相手の目を見て聞く、話す。「おはよう・こんにちは」の挨拶、「ありがとう」の感謝の気持ち、正しい日本語も使って欲しいものです。

礼儀作法の美しい人に悪人はいません。どうぞ、心豊かな人格を持った人を育てるために、もっとやかましく礼儀作法をお子さんに教え伝えようではありませんか。

我が寺では平成五年より年三回（当初四回）落語会を開いております。本年三月で七十回目となります。実は学生時代、童話を話す勉強をしており、よく寄席に通っております。

現在の落語協会会長の柳亭市馬師匠も、二ツ目の三好時代から真打市馬になった時分、五年間くらいですが定期的に出演して頂きました。大御所の三遊亭円窓師匠や柳家権太郎師匠等も特別な時に出演して頂きましたね。

私が三十代前半の頃、先代柳家小さん師匠の弟子の三吉師と知り合う事となりました。何年か後、師匠より「今、出演で始まりました。安いギャラ（こ若手の噺家の話す場所がなかなか無く、こでは言えません）でやって頂ける事てね」との事。私は住職になったばかりとなりまして。

ある時、学生服姿の高校生が毎回聞きに来ておりました。聞くと噺家に成りたいとの事。現在柳家かえりという高座名で二ツ目となり活躍しております。

## 「落語を楽しむ」

西門寺住職 島崎義宣



## 民話の小箱（北海道）

### 宝箱を取り戻したネコ ● 共生



むかしむかし、あるところに、まずしい男が住んでいました。毎日毎日、山へ出かけては鹿や熊をとって暮らしていましたが、もとは村一番の長者で、誰からも尊敬されていきました。

獵に出かけるが、全く獲物のない日があり、そんな時にはネコやイヌにさえエサをあげることができません。ウサギ一匹手にすることができないので朝から晩まで寝ていました。ネコもイヌも困ってしまい、男の枕元へ行つて相談しました。

ところが長者の家に代々伝えられていた、神様の宝箱が海の魔人に盗まれてからというもの、男はすっかり落ちぶれてしまい、今では粗末な小屋に、一匹のネコとイヌがいるだけなのです。

「なあ、このままでは、あなたもわたしも餓え死にしようよ。何とか食べ物を手に入れる方法はないのですか？」

すると男は、

「いやわしはもうだめだ。すまんが、こんな家は出て、お前たちだけで生きてくれ。」といったのです。

ネコが励ますように男に言いました。「そんな気の弱いことでどうするの。」

男は宝箱を盗まれてからひどい暮らしになったことを打ちあげました。「なんだそうだったの。では、あたいらが宝箱を取り戻して上げるよ。」そしてイヌも、

「そうさ、どんなことがあっても待っておくれよ。」

二匹はすぐに家を出て、海の魔人の住む島へと向かいました。

## 一口法話



### ただただお念仏を

「日本を美しくする会」が掲げる「掃除の効能」というものがあります。そこでは「掃除の効能」を次の五つの項目で説明しています。

まず第一は、「掃除をすると謙虚になれます。」人はどんなに才能があっても謙虚でないと幸せになれないのです。

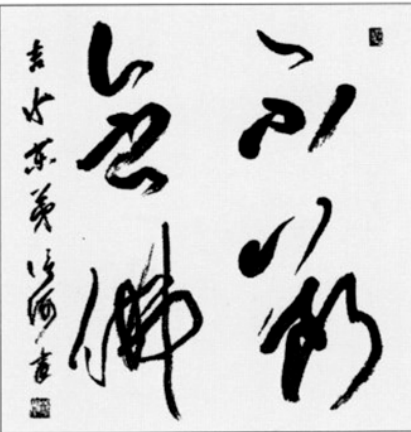
第二に、「気づく人になれます。」気づくか、気づかぬか、大きな差が生まれます。

第三に、「感動があります。」一生懸命掃除をすると感動につながります。

第四に、「感謝の心が育ちます。」人は幸せだから感謝するのではなく、感謝すると幸せになれるのです。

第五の掃除の最大のテーマは、「

# 誘いの書へ



「不断念佛」

故林 錦洞書

貞林院瑞正寺 住職 林 清方

島までは遠くて、二匹は海の中を、かわるがわる相手を背中に乗せて泳ぎ、ようやく島についた時には、寒さと空腹で一步も動けない状態でした。それでも魚を食べてようやく元気になった二匹が立ち上がろうとした時、おびただしい数のネズミが、山の方から海辺へと押し寄せてきたのです。ネコはネズミたちに叫びました。

「魔人のいる洞穴へ連れて行きなさい、さもなければ、この爪で一匹残らずひつとらえて、やつぎきにしてやるよ。」

イヌもまげじと叫びました。

「いうことを聞かないと、このキバで一匹残らずかみくだいてやる。」

その声にネズミたちは驚き、向きを変えると、二匹を案内して山へ登っていったのです。さて、山の中腹に大きな岩屋があり、



入り口には石の戸が閉まっていた。ここが魔人のいる洞穴のようですが、どうやら魔人は留守のようです。

「よし今のうちよ。お前たち早くこの石の戸に穴を開けなさい。」

二匹が岩屋に飛び込むと、男の言ったとおりの宝箱がありました。

二匹が岩屋から出て海辺へ急ぐと、ネズミを引き連れた魔人がものすごい勢いで山を下ってきました。

二匹は海へ飛び込み、必死に泳ぎました。宝箱のおかげで男はまた長者となりました。そして魔神がふたたび宝箱を盗まないように、ネコとイヌは死ぬまで神さまの宝箱を守ったという事です。

おしまい

行草書で「不断念佛」と書かれています。文字どおり絶え間なく常にお念仏をお称えするという意味ですが、これは浄土宗の教えの根本でもあります。

まもなく春のお彼岸を迎えます。春と秋の年に二回、お中日を挟んで前後三日間の計七日間をお彼岸と言います。私たちが住んでいる此の岸「此岸」から、あらゆる苦しみのない仏の世界「彼岸」に生まれることを願います。

この七日間、仏道に励むのが本来のお彼岸の意味です。大阪の四天王寺では春秋のお彼岸には日想観（お中日に真西に沈む夕陽を眺め極楽浄土をイメージする）というものを行っています。昔から人々は沈む夕陽の向こうには懐かしいご先祖様がいらして、いつかは自分た

お念仏をお称えしていただくのでしよう。

お彼岸中に仏道として六波羅

心を磨くこと。「心は取り出して磨けないので、代わりに目の前のものを磨くことで、心もきれいになります。時にはひたすらに磨いてください。このような「心の教育」の大切さは新聞記事にもなっていました。

理屈の世界ではありません。まさにお念仏もそのとおりです。ただ一向にお念仏を申し続けていくならば、煩惱多き私ではありませんが、いささかながら、この五徳をいただき、この世、のちの世にかけて、真人間として、仏道を歩まさせていただきます。ただただお念仏です。

総本山知恩院布教師会ホームページより

蜜（布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧）の行に励むことはなかなか難しいことだと思いがすが、せめて毎日お念仏をお称えすることは容易ではないのでしようか。仕事・家事・学業など何かと忙しい現代人にとって不断念佛は無理でも、せめて朝夕に十遍のお念仏をお称えすることは可能でしょう。お彼岸にはあらためてご先祖様への供養と今ある命への感謝の気持ちをお念仏をお称えしましょう。

## 春の彼岸法要ご案内

春の彼岸法要は次のとおり行いますので、お参りください。

**三月二十一日(水) 正午より**

彼岸法要は中日の正午に先祖代々のご回向をいたします。塔婆をご希望の方は、電話・ファックス・メール等にて寺までお申し込みください。

塔婆料 三千元  
回向料 志納

### 「筆縁を訪ね台湾高雄へ」

本年一月十八日より二泊三日で家内とともに台湾の高雄を訪ねました。高雄には先代錦洞の書道のお弟子さんがおります。現在高雄で書道教室を開き書家としても活躍されています呉麗元さんは、以前日本に長く滞在しており、先代から書の指導を受けておりました。呉さんの父親が戦前より祖父の林祖洞に書道を習っていたことがあり、それからの縁が今でも続いております。また呉さんの姉夫婦(張さん)は先代錦洞と母映子が証婚人(日本の仲人のようなもの)を務めたこともあり、

日本の伯父さん叔母さんと言われ大変慕ってもらえていました。



「呉さんと先代の遺墨(稽古場に展示)」

今回は昨年母の葬儀の際に遠く高雄より皆さんが駆けつけて頂きましたので、そのお礼も兼ねて初めての訪問となりました。折角の訪問なので呉さんには先代が亡くなる年に書いた最後の作品(軸装)を形見分けとして寄贈し、張さんには額装で「福」と書かれた作品を寄贈しました。丁度台湾の旧正月を迎える時期だったので、おめでたい字ということで大変喜んで頂けました。



「張ご夫妻と玄関に飾られた作品」

この度の滞在は正味一日半という短い滞在でしたが、まるで日本から来た親戚のように大変な歓迎を受け、心温まる思いでした。祖父の代より実に三代にわたりこうしてお付き合いができて、書道を通じて素晴らしい出会いを与えて頂いたことにあらためて感謝する次第です。

### \*施餓鬼法要のご案内\*

本年の施餓鬼法要は五月十四日(月)に厳修いたしますのでご予約下さい。ご案内につきましては、あらためて四月に発送いたします。

### 「書道教室のご案内」

お寺では毎月第二火曜日に書道教室を開催しています。現在約十数名の方がお稽古をしております。ご指導頂きますのは、産経国際書会副理事長をされております今田篤洞先生です。

初心者大歓迎ですので興味のある方はお寺まで随時お申し込み下さい。なお月謝は月三千元です。

### ◇これも仏教用語なの?◇

#### 「大丈夫」

仏教では「大丈夫」は菩薩さまのことを示します。古代中国では男性のことを「丈夫」と言い、男性の中でも強くてりっぱな男性のことを「大丈夫」と呼んでいました。本来は異なる意味ですが、人々を苦しみから救うために一生懸命修行をしている菩薩さまとそばにいてくれると安心できるような強い男性の意味が合わり、現在の「大丈夫」と言う使われ方が定着したのかもしれません。